

最近の消費動向 (月別概況・個別ヒアリング)

2019年7~9月期の売上高は、百貨店では、7,8月と堅調に推移し、9月は消費税増税前の駆け込み需要により前年同月を大きく上回った。スーパーでは、7,8月は多雨の影響もあり低調であったが、9月は駆け込み需要のあった住居関連品等が伸長し、売上高の前年同月比はプラスに転じた。

乗用車新車販売台数は、3ヶ月連続で前年の売上台数を上回り、特に9月の伸び幅が大きかった。

コンビニエンスストア販売額は、7,8月は堅調に推移したが、9月は、たばこ税増税前で伸長した前年同月を下回った。

家電大型専門店販売額は、8,9月にかけて伸長した。ドラッグストア販売額は、7,8月と低調であったが、9月は駆け込み需要により伸長した。ホームセンター販売額は、8月からプラスに転じ、9月は台風の影響で大きく伸長した前年をやや上回る伸びとなった。

個人消費は持ち直しの動きがみられる。

月別概況

7月 <平年差> 平均気温-0.9℃、降水量+28.7%

梅雨明けは、昨年より15日、平年より3日遅く、月初めから低気温が続き、夏らしく気温が上昇したのは下旬以降であった。百貨店では、天候の影響を受け、夏の季節商品が不調となった。スーパーでは、桃やすいかなど夏に旬を迎える果物の動きが鈍く、また、鰻は不漁による価格高騰もあり苦戦した。

8月 <平年差> 平均気温+0.3℃、降水量+156.9%

お盆に台風10号が西日本を縦断したため、大阪でも大雨が降り、一部百貨店・スーパー等では閉店時間を繰り上げた。また、日韓情勢により韓国人旅行者は大幅に減少したが、売上シェアの高い中国人旅行者が増加し、百貨店におけるインバウンドの売上高は概ね堅調であった。スーパーでは、野菜の相場価格の高騰した前年の反動や秋刀魚不漁の影響を受け、前年同月をやや下回った。

9月 <平年差> 平均気温+1.6℃、降水量-49.6%

20日から開催されたラグビーW杯の観戦のため、出場国である欧米豪からの旅行者が増えたほか、中国人旅行者も増加したが、韓国人旅行者の減少が止まらず、百貨店のインバウンド売上高は堅調ではあるが、落ち着きを見せている。また、最終週には、消費税増税前の駆け込み消費が盛り上がりを見せ、高額品や化粧品が高伸した。スーパーでは、厳しい残暑が続いた影響から、秋の季節商品の動きが鈍く、軽減税率の適用される食料品は低調であった。

百貨店 A 社

9月は、台風により休業した前年の反動による増収もあるが、消費税増税前の駆け込み需要で10日頃からは高額品が、20日頃からは衣料品や化粧品等の一般品が動いた結果、売上高は前年同月を大きく上回った。ただし、前回の増税時(2014年4月)と比較すると、相対的には弱い動きであった。また、インバウンドは、台風による関西国際空港の閉鎖が客数減に大きく影響した前年の反動もあり、中国人観光客が大幅に増え、好調に推移した。

紳士服: 通常時から好調が続いていた、インターナショナルブランドやバッグ・革小物が駆け込み需要により伸長し、前年同月の売上高を上回った。

婦人服: 月前半の気温の高さはマイナスに影響したが、高額なコート等の冬物ファッションが増税前の先行買いで伸長したほか、ジャケットやドレスを中心に好調に推移した。

子供服: 購入時の税率が適用されるネット販売のランドセルが好調であったほか、インターナショナルブランドが伸長し、前年同月の売上高を上回った。

宝飾・時計: 増税前の駆け込みを機に、外商顧客、一般顧客ともに売上が伸長した結果、前年同月の売上高を大きく上回った。特に、時計やジュエリー、ブランドバッグ等の高額品の伸びが大きかった。

服飾雑貨: 季節商品では駆け込み需要がそれほどみられなかったが、好調が続いていたハンドバッグのほか、アクセサリーでも駆け込み需要があり、前年同月の売上高を上回った。

食料品: 軽減税率が適用されない酒類では、駆け込みの需要により一部伸長したが、全体的な影響はほぼなかった。台風の影響による客数減がマイナスに寄与した前年の反動もあり、売上高は伸長した。

百貨店 B 社

9月は、前年の台風による休業の反動のほか、イベントの実施や消費税増税前の駆け込みの効果もあり客数が大きく増加し、時計・呉服・羽毛布団等の高額品を中心に売上も好調に推移した。前年の台風の反動による影響を除外しても、前年同月からの売上高の増加幅は大きかった。なお、ラグビーW杯による集客効果はほとんどみられなかった。

紳士服: バッグ・革小物等の高単価商品が駆け込み需要により伸長したほか、前回の増税時(2014年4月)と同じく旅行用バッグも動いた。また、例年は気温が低下してから売れ行きがよくなるコートも、高額品を中心に好調であった。

スーパーC社

婦人服:紳士服と同じく、駆け込み需要により、バッグ・革小物やコートが好調であったほか、10月直前にブーツも動いた。一方で、通勤・外出時にスニーカーを履く人も増えており、パンプスは低調が続いている。

子供服:インバウンド需要もあり、前年同月の売上高を大きく上回った。特に、子ども用のスキンケア用品は、一部商品では入荷するとすぐに在庫がなくなるなど、訪日客の人气が高い。

アクセサリ:7、8月に受注が増えたブライダルリングの引き渡しが増税前の9月に集中したこともあり、売上高は前年同月を大きく上回った。

宝飾・時計:駆け込み需要や催事の実施により、売上高は前年同月を大幅に上回った。特に、時計が好調であったほか、新元号(令和)を記念した小判などの金製品も売れ行きがよかった。

化粧品:前年の関西国際空港閉鎖の反動もあり、訪日客は月を通して増加基調であった。また、国内客でも中旬以降、駆け込み需要の効果がみられ、売上高は前年同月を大きく上回った。

シーズン雑貨:9月の高気温が影響し、駆け込み需要もほとんどなかったため、前年同月の売上高を下回ったが、サングラスといった夏の季節商品は比較的堅調であった。

食料品:10月に入っても税率が変わらない商品が多いなか、全体の客数増加が好影響をもたらし、前年同月の売上高をやや上回った。酒類では、比較的高額なワインやウイスキーが好調であり、薬品も駆け込み需要の効果がみられた。

9月は、平年より気温の高い日が多かったこともあり、秋の季節商品が不調であったほか、カップラーメンや電池等の防災用品で前年の台風による災害需要の反動減が生じたが、消費増税前の駆け込み需要により、衣料品や住居関連品で伸長し、売上高は前年同月を上回った。

衣料品:気温高の影響により衣替えが進まず、長袖シャツや婦人ブーツ等の季節商品が不調であった。増税前の駆け込み需要がブランドものの婦人下着やブラックフォーマルで顕著にみられ、トレーニングウェアやビジネスシューズも伸長したこともあり、売上高は前年同月を上回った。また、新学期や運動会での需要によりスポーツシューズが月を通して好調であった。

食料品:野菜の相場安や秋刀魚等の旬魚の不漁等の影響により生鮮品が苦戦し、売上高は前年同月を下回った。気温高の影響により鍋・おでん等の秋の季節品は伸びなかったが、すいかやアイスといった夏の季節品は好調であった。また、増税前の買いだめにより、本みりんやビールは伸長したが、併せて他の商品を購入するといった副次的効果はなかった。

住居関連:冷蔵庫などの大型家電は増税前の駆け込み需要が6月ごろから続いていたが、9月は大きく伸長した。また、9月最終週には、化粧品や防虫剤といった日用消耗品のまとめ買いが急増するなど好調に推移した結果、売上高は前年同月を上回った。

(松永 有生)

大阪府の消費に関する経済指標

※ Pは速報値を表す (単位:百万円、台、%)

		2019年	4月	5月	6月	7月	8月	9月
大型小売店計	販売額(全店ベース)		146,690	146,980	147,728	157,493	144,360	p 160,353
	(前年同月比、全店ベース)		0.5	1.3	1.1	▲2.1	1.6	p 17.3
	(前年同月比、既存店ベース)		0.4	1.3	1.1	▲1.9	1.6	p 17.3
うち百貨店	販売額		77,883	76,334	76,876	86,968	71,924	p 87,862
	(前年同月比、全店ベース)		2.5	2.2	2.4	1.3	3.5	p 30.8
	(前年同月比、既存店ベース)		2.5	2.2	2.4	1.3	3.5	p 30.8
うちスーパー	販売額		68,806	70,647	70,852	70,525	72,463	p 72,491
	(前年同月比、全店ベース)		▲1.6	0.4	▲0.3	▲5.8	▲0.3	p 4.3
	(前年同月比、既存店ベース)		▲1.8	0.3	▲0.3	▲5.6	▲0.2	p 4.0
コンビニ・ストア 販売額及び店舗増減	販売額(全店ベース)		69,516	70,415	70,825	74,397	74,424	p 70,601
	(前年同月比、全店販売額)		4.7	4.4	2.6	1.5	3.0	p ▲0.6
	店舗数(前年同月比)		0.4	0.3	0.5	0.3	0.4	p 0.3
乗用車新車販売	台数		17,346	17,611	19,027	20,157	16,806	24,401
	(前年同月比)		8.0	7.2	1.1	7.0	6.3	17.4
家電大型専門店販売額	(前年同月比)		1.8	6.3	8.4	▲5.5	14.3	p 58.9
ドラッグストア販売額	(前年同月比)		▲2.3	▲0.2	0.9	▲2.5	▲0.9	p 19.9
ホームセンター販売額	(前年同月比)		2.9	9.0	1.4	▲4.6	7.0	p 1.4

資料:【大型小売店販売額】近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況」。

【コンビニ・ストア販売額】経済産業省「商業動態統計」。

【乗用車新車販売台数】(社)日本自動車販売協会連合会、(社)全国軽自動車協会連合会。

【家電大型専門店販売額】【ドラッグストア販売額】【ホームセンター販売額】経済産業省「商業動態統計」。